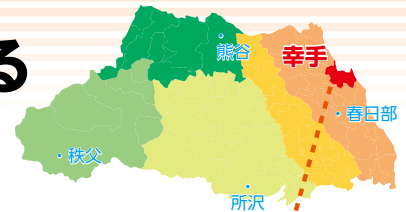


イチ押し

# 地域経済の活性化を語る

県内首長に聞く リレーインタビュー②

幸手市 渡辺 邦夫 市長 (57歳)



「幸手を改革」がスローガンの渡辺邦夫市長

## 「桜と歴史」を受け皿に地域経済の発展を

幸手市は、「桜のまち」と呼ばれるほど関東有数の桜の名所として知られています。春になると中川の権現堂堤では、約1,000本の桜が開花し、1kmにおよぶ桜並木と周辺に広がる菜の花畑が70万人を超える観光客の目を楽しませています。

権現堂堤は、春の桜以外にも初夏の紫陽花、秋の曼珠沙華、冬の水仙など、四季を通じて



▲権現堂を舞台に季節を代表する花々が咲き誇る

花々が楽しめる観光スポットとなっています。開花時期に合わせた花まつりも開かれますので是非足をお運びください。

幸手市は江戸時代、日光街道や日光御成街道などの主要街道が合流・分岐する幸手宿として発展してきました。この幸手宿の面影を残す中心市街地は歴史的な観光資源であり、ここの活性化が地域経済の発展に必要な行政課題の一つと考えています。

これについては、平成24年11月に私も発起人の一人となり、1都3県16自治体から成る「日光歴史街道活性化首長サミット」を開催しました。今後は広域連携で取り組んでいきます。現在、そのための施策として、権現堂堤の観光客を旧日光街道幸手宿へと導き、回遊型の観光を進めるための観光マップを制作中です。今後は権現堂堤や幸手宿だけでなく、地域一体となった観光振興、そして地域経済の活性化を進めていきます。

## 道路と鉄道、2大整備事業で大きく躍進

平成27年度の圏央道の県内開通が市の将来の発展に重要な役割を果たすものと考えています。現在、開通に合わせて県内でも最大規模を誇る産業団地の整備を行っており、企業誘致による地域経済の活性化と雇用拡大に大きな期待が寄せられています。

圏央道のほぼ中間に開設される幸手インターチェンジは、八王子へも成田空港へも約60分でアクセスが可能となります。さらに東北自動車道や関越自動車道などへのアクセス効率もよく、まさに幸手インターチェンジは新たな幸手の玄関口といえます。

また、幸手市の歴史ある玄関口、幸手駅の整備も進めていきます。幸手駅西口開設と西口地区の土地区画整理事業は、市の長年の課

題でした。これは、幸手駅の橋上駅舎化と現在の東口から直接西口駅前広場へ自由通路を結ぶ計画であり、多目的トイレやエレベーター、エスカレーターの設置など、利用者の安全性の確保と利便性がより向上されるものと考えます。

本計画は、鉄道事業者である東武鉄道との合意がすでに図られており、本年度は昨年度に引き続き、工事に向けた実施設計の作成を進め、平成29年度の完成を目指しています。

これら道路と鉄道、2つの大きな整備により、幸手市は大きく躍進するものと期待しています。

### 子育て支援と教育の充実が未来を支える

幸手市では、子育て世代を応援するため、「さっちゃん子育て応援事業」として、子育て支援施策を総合的に推進し、子育て応援日本一を目指しています。

市内3か所の子育て支援センターでは、親子で楽しめるイベントを毎週実施しています。また、ウェルス幸手の親子プレイルームでは、専任指導員を増員し、子育てに悩む保護者の相談や、子育て応援団を募集して、ママ友のサークル活動や子育て支援団体の活動と連携した子育て応援体制を整えています。

さらに、子どもの医療費の支給を引き続き中学卒業まで実施するとともに、児童・生徒が2人以上の保護者には、学校給食費の補助を行うなど、子育て世代の経済的な負担の軽減



▲圏央道幸手インターチェンジに隣接する幸手中央地区産業団地は、交通の利便性ととも、周辺の田園環境との調和を目指す

減も図っています。

子育て支援と合わせて重要なのが教育環境の充実です。市内小中学の耐震化はもちろん、校舎の環境整備なども進めています。また、幸手市では子どもたちの学力向上と地域の方々との交流を図るために、平成25年度から一部土曜日授業を実施しています。

子育て世代の皆さんが幸手に住んでいただかなければ、未来を担う子どもの数も増えず、幸手の人口は減少する一方です。明日の幸手を支えるためにも、子育て支援と教育の充実は市政の大きな課題と位置付けて、さまざまな事業に取り組んでまいります。

### 幸手を改革(かえる)のために

私は市長に就任以来、「幸手を改革」のために、さまざまな市政改革を推進してまいりました。今後も「市民目線」「スピード感」「現場主義」さらには「能動的対応」を徹底し、市政運営を進めていきます。

市職員に対してもこれらの実現と、より高いレベルの市民対応を実現するために、何が必要かと考えながら行動する「プラス1」の市民対応を進めてまいります。

今回は、住民同士の交流も盛んなお隣・杉戸町の先輩、古谷松雄町長にバトンをお渡しします。

### 幸手市の概要

人口(平成22年国勢調査)	54,012人
世帯数(同上)	19,904世帯
平均年齢(同上)	46.2歳
生産年齢人口比率(同上)	65.2%
面積(同上)	33.95平方キロメートル
名目市内総生産(平成22年度市町村民経済計算)	1,285億8,500万円
事業所数(平成24年工業統計)	97事業所
製造品出荷額等(同上)	922億4,963万円
事業所数(平成24年経済センサス)	2,199事業所
年間商品販売額(平成19年商業統計)	751億45万円